



## 原田牧場 Note

page 16

私が「さる語」と呼んでいる北海道独特の言葉があります。

例1 「この炊き込みご飯、食べらさるわー」

自分の意思とは関係なく勝手に食べてしまうわ

例2 「リビングの電気つけっぱなしになってたよ」の返事が

「そうだった？スイッチが押ささってたみたい」

自分の意思ではないところで勝手に押されてたようだ

自分がやったことなのに、勝手にそうなっちゃった感を出す言葉。

例1は、勝手に食べ進んじゃうくらい美味しい、という褒め言葉の意味もあるので笑って済みますが、例2の場合は、責任はどこへ？

誰かのせいにしない、されない、平和な言い回しのようにだけど…うーん。

来道当初は聞かたびモヤっとしたものです。

大阪で仕事をしていた頃は、事の白黒をはっきりつけ、担当のすみ分けや責任の在りどころを明確にした方がお互いに仕事を進めやすい環境でした。行き詰まったら担当先が変わったり、もっと自分に合う部署へ異動すれば、また良い流れに乗れる。引越しや転職もあり。「環境を変える」が難しくない場所だったのです。田舎ではそうもいきません。隣近所の牧場とは代々繋がりがりますし、働きに来てくれる方々も町内会のご近所さん。

コンビニ、修理工場、運送業者も昔からの顔なじみ。多少問題が起こっても白黒はっきりさせて雰囲気悪くしたくない。お互いわかっていて、わざわざ突き詰めない。やすやすと環境を変えられない土地柄だからこそ生まれた言葉があるんだな、とわかってきました。

牧場では予期せぬトラブルが起こります。何をやるかわからない牛のことなので、誰のせいでもないですが、発端を突き詰めていくと何%かは人災です。人ができる範囲で最大限気をつけるべきことを探るために、スタッフの皆さんに原因はなんだったか？と聞いたり、自分に問うたりしてみます。

「春は菌の活動も活発になり、乳房炎に注意が必要とわかっていたのに見過ぎました」「牛が異常にしつこく蹴ってきたのでアレっ？とは思っていたけど熱までは測らなかった」「脱臼しないように滑り止めをもっと撒くべきだった」 どうしたら防げたかと考えるうちに、ああ、自分が悪かった、熱心なスタッフさんたちは気に病みます。（私も気に病んでリピートで夢に出てくるタイプ）かわいそうな牛の姿を見るとより切実ですが、熱心で繊細な方は「さる語」のニュアンスを取り入れてもいいと思います。

さぼっていたわけでもない、考えていなかったわけでもない、一所懸命やってもトラブルが起こることはある。その時はまた考えて、自分のせいにしすぎないで、みんなで共有していけばいいのです。

牛のことを、何をやるかわからない、なんて言いました。確かに最悪事態からイタズラまで多種多様なことをやりますが、私たちが驚くような生命の強さ、ミラクルを起こすこともあります。何をやるかわからない牛と付き合いの中で、思考や感情や感動や可能性、振り幅いっぱいやり甲斐をもらっています。

「さる語」を聞くようになって18年経つと、ただの無責任語と思っていたのが、違う風に聞こえてきます。

誰のせいだっていいんだよ、深く考えなくていいんだよ。

そうなっちゃった！ってだけ。許しあっていこうよ。と。

その土地土地で暮らしやすく考えられた言葉かあ。いいもんですね。

そろそろ使ってみようかな（笑）

筆者 原田 希

1973年 大阪府吹田市生まれ

2006年 酪農家との結婚を機に北海道標茶町へ

2017年 北海道農業士に認定 北海道指導農業士の夫とともに

新規就農者の支援や女性農業者向けの勉強会のお世話係を担当